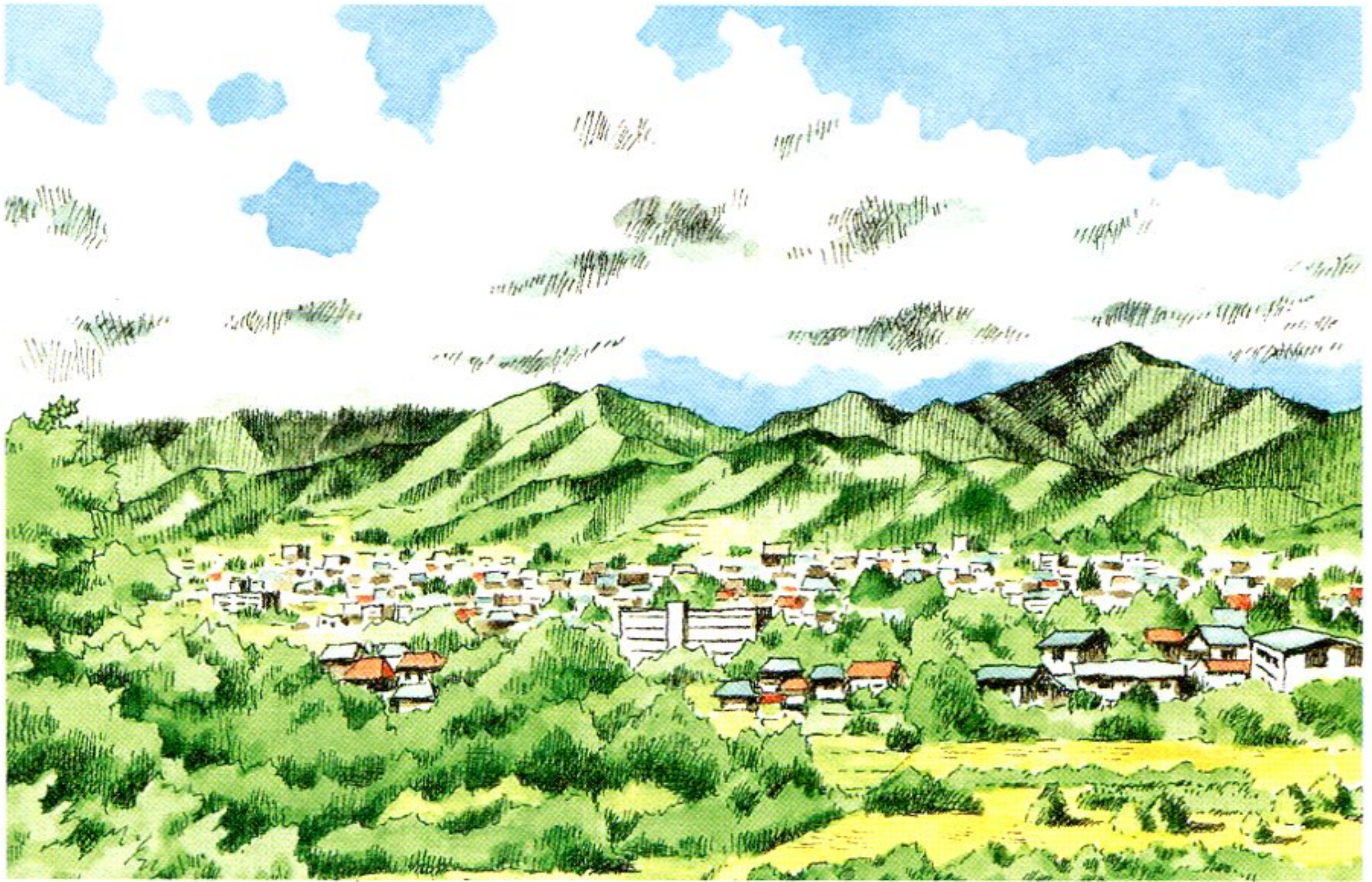


広 陵



第34号 2005.7.20

神奈川県立秦野高等学校同窓会会報



▲柔道部 昭和56年



▲応援委員会 昭和49年

▲籠球部 昭和19年



▲排球部 昭和32年



▲蹴球部 昭和45年

同窓会会報第34号目次

題字

宮本 信義 (中5回)

表紙

スケッチ「故郷の山」

横溝 英一 (中20回)

総会のご案内

1

平成16年度事業報告・決算報告

2

平成17年度事業計画案・予算案

3

ご挨拶 同窓会会長・柳川一朗

4

校長・岩本満敏

4

前校長・早野通哲

5

平成16年度総会報告 秦野支部

5

支部だより

6

秦中・秦高在職中の思い出

8

広畑が丘 空晴れて 秦中・秦高に想う

10

母校からこんにちは

12

母校進学カルテ

14

同期会だより

16

特別寄稿 書家 中原茅秋

17

80周年について・叙勲・母校職員異動・

18

物故者・連絡等

18

平成17年度 秦野高校同窓会 ～ 総会のご案内～



日時：8月27日（土）
場所：伊勢原市民文化会館
伊勢原市田中348
TEL. 0463(92)2300

総会日程

- P.M.1:30 受付
2:00 総会
- 16年度事業報告及び決算報告
 - 17年度事業計画及び予算審議
 - 役員改選
 - その他

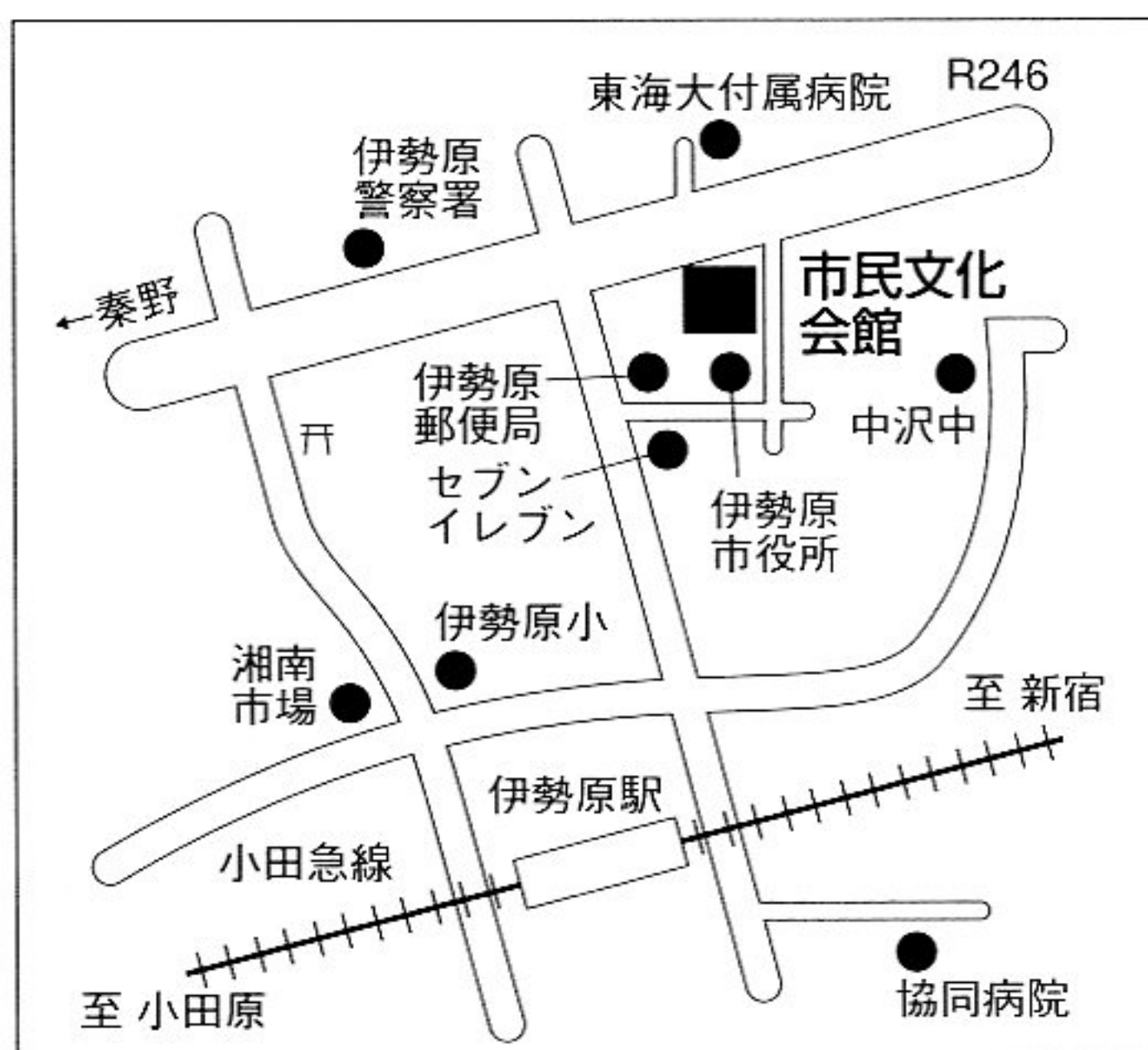
- * 総会終了後 懇親会
会費4,000円(当日納入)
■ アトラクション (予定)

総会へのお誘い
同窓会長 柳川一朗
平成17年度総会は伊勢原市民文化会館で伊勢原支部の皆様にご案内いたしました。会員各位のご参加をお願いいたします。

会場へのご案内

**バス：小田急線伊勢原駅北口
2番乗り場
東海大病院経由愛甲石
田行き**
午前11時50分発
午後12時30分発

**徒歩：小田急線伊勢原駅下車
約10分**



平成16年度決算報告

◎歳入の部

自平成16年4月1日
至平成17年3月31日

項目	16年度予算額	16年度決算額	増減	摘要
前期より繰越	6,477,598	6,477,598	0	
終身会費	4,600,000	4,330,000	△270,000	新卒者349 会員84名
受取利息	5,000	2,210,620	2,205,620	1,000万円満期利息他
雑収入	0	773,330	773,330	菩提生産森林組合より
合計	11,082,598	13,791,548	2,708,950	

◎歳出の部

項目	16年度予算額	16年度決算額	増減	摘要
会議費	410,000	318,000	△92,000	
総会費	250,000	250,000	0	総会諸費
役員会議費	160,000	68,000	△92,000	役員会議、幹事会諸費
事業費	4,720,000	4,962,750	242,750	
支部育成費	270,000	270,000	0	7支部育成費
同期会育成費	200,000	60,000	△140,000	6同期会祝金
在校生活活動振興費	1,200,000	1,700,000	500,000	県・関東・全国大会等出場激励費
吹奏楽部助成金	100,000	100,000	0	
慶弔費	100,000	45,750	△54,250	
会報発行費	2,850,000	2,787,000	△63,000	広陵発行諸費
事務費	380,000	155,209	△224,791	
事務局費	300,000	135,465	△164,535	
通信費	50,000	13,580	△36,420	会議等通知郵送料
印刷費	30,000	6,164	△23,836	会議資料等印刷代
定期貯金	0	3,500,000	3,500,000	銀行へ入金
予備費	5,572,598	400,000	△5,172,598	同窓会林記念碑移転費
後期へ繰越	0	4,455,589	4,455,589	
合計	11,082,598	13,791,548	2,708,950	

定期預金	15年度	41,000,000
	入金	3,500,000
	16年度	44,500,000

平成16年度秦野高校同窓会の会計収支決算について、関係帳簿及び書類等を審査した結果、正確・校正に処理されていることを認めます。

平成17年6月10日
会計監査 加藤武雄 清田幸宏

平成16年度事業報告

1 役員会議

- 5月22日(土)同窓会林の件、総会の件、その他
- 11月6日(土)同窓会林記念碑の移転の件、創立80周年記念行事の件、その他
- 2月19日(土)創立80周年記念行事の件、来年度事業計画・予算の件、その他
- 3月26日(土)創立80周年記念行事の件、幹事会開催の件、その他

2 幹事会

- 6月19日(土)総会提出議案の件、平成15年度実施事業・決算の件、平成16年度事業計画・予算の件、同窓会林の件、総会担当幹事支部(秦野支部)

3 総会

- 8月28日(土)午後2時 秦野商工会議所 幹事支部(秦野支部)出席者 会員55名 学校4名 合計59名
 - ・総会
 - ・教師とOBによる発表会

4 会報「広陵」33号発行
(全会員配布)

5 支部育成と同期会育成

- ・支部育成、活動費助成
- ・同期会育成、6団体に祝金贈呈

6 在校生への活動支援

7 6校同窓会連絡会

- 1月29日(土)やなぎ家
 - ・伊勢原高、伊志田高、南が丘高、大秦野高、秦野高 各同窓会役員および学校から31名参加
 - ・各校同窓会の現状と課題、情報交換

以上の通り報告します。

平成17年8月27日

会長 柳川一朗

会計 畑野公保

〆 榎本節子

平成17年度予算(案)

◎歳入の部

自平成17年4月1日
至平成18年3月31日

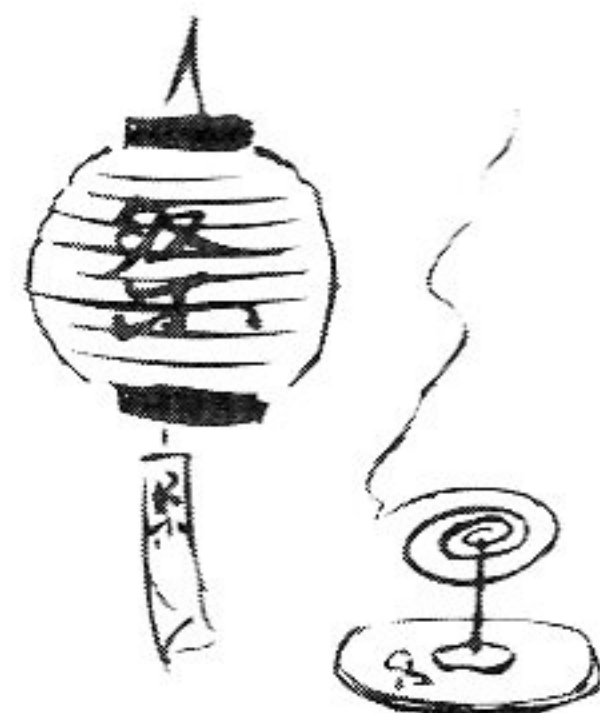
項目	17年度予算額	16年度予算額	増減	摘要
前期より繰越	4,455,589	6,477,598	△2,022,009	前年度繰越金
終身会費	4,500,000	4,600,000	△100,000	450人会費
雑収入	5,000	5,000	0	預金利息
合計	8,960,589	11,082,598	△2,122,009	

◎歳出の部

項目	17年度予算額	16年度予算額	増減	摘要
会議費	410,000	410,000	0	
総会費	250,000	250,000	0	総会諸経費
役員会費	160,000	160,000	0	役員会議、幹事会諸費
事業費	4,620,000	4,720,000	△100,000	
支部育成費	270,000	270,000	0	支部育成費
同期会育成費	100,000	200,000	△100,000	同期会祝金
在校生活動振興費	1,200,000	1,200,000	0	在校生諸活動奨励費
吹奏楽部助成金	100,000	100,000	0	
慶弔費	100,000	100,000	0	祝儀・弔意費
会報発行費	2,850,000	2,850,000	0	広陵発行諸費
事務費	210,000	380,000	△170,000	
事務局費	150,000	300,000	△150,000	
通信費	30,000	50,000	△20,000	会議等通知郵送代
印刷費	30,000	30,000	0	諸会議等資料コピー代
予備費	3,720,589	5,572,598	△1,852,009	
合計	8,960,589	11,082,598	△2,122,009	

平成17年度事業計画(案)

- 1 総会・幹事会・役員会の開催
- 2 会報「広陵」34号の発行
- 3 支部育成
- 4 同期会との連携(祝金の贈呈)
- 5 在校生活動への支援と交流
- 6 会費の納入促進
- 7 同窓会諸運営の検討
- 8 学区内同窓会との交流、その他



県立秦野高校同窓会本部役員名簿

- 【会長】 柳川一郎 (秦野)
- 【副会長】 深田源次 (東京) / 内堀昌治 (茅ヶ崎・藤沢) / 松永幸夫 (平塚)
喜多実 (伊勢原) / 梅原福司 (秦野) / 廣澤富正 (小田原)
鈴木正 (南足柄)
- 【支部長】 梅原福司 (秦野) / 稲木貢 (小田原) / 賀川義光 (伊勢原)
内堀昌治 (茅ヶ崎・藤沢) / 野川義雄 (平塚) / 深田源次 (東京)
梅本玄正 (南足柄)
- 【理事】 大川要 (伊勢原) / 榎本圭治 (秦野) / 渋谷富治夫 (秦野)
畑野公保 (伊勢原) / 榎本節子 (秦野) / 青木利之 (秦野)

ご挨拶

同窓会会長 柳川 一朗



同窓の皆様には益々お元気で各分野にてご活躍の事とお慶び申し上げます。

昨年は同窓会総会を秦野支部のお骨折りで、今年も伊勢原支部の当番で、八月二十七日伊勢原文化会館で挙行致します。会員の多数のご出席をお待ちしております。さて「広陵」を手にとつてまず目につく表紙のスケッチは、横溝英一氏(中20)の作品で、いつも私の目を楽しませてくれ、感謝しています。既に前号でお知らせしました秦野高校同窓会林は地権者

ました。進学の間でも、国立大学に五十数名の合格者を出しました。今後の動向にご注目下さい。

それから、来年は創立八十年に当たります。十月二十九日近くの日に、校外施設で

秦高の活性化に向けて

校長 岩本 満敏



本年四月、ご退任されました早野前校長の後を受け着任しました岩本でございます。

何よりも本県で最も古い伝統と校風を培いながら現在に至る本校の教育に携われることに対して、改めて校長として大きな喜びと同時に責任を痛感しております。

の式典を検討しています。PTAと協力して立派なものにしたいです。会員の皆様には格段のご協力をお願い致します。最後に皆様のご健勝・ご多幸を祈念して挨拶いたします。

ひとえに今日までの歩みにつきましては、学舎を巢立ち社会の第一線等で大きな足跡をあげられてこられている二万名を越えた同窓生の皆様による母校に対する熱い思いに裏付けされた数多くのご支援やご協力によるものと認識をしております。

本校の校風である「文武両道」の実現に向けた多くの実践は健在であり、日々千余名の本校生は輝く瞳で汗を流しながら勉学と部活動に取り組ん

でいます。と同時に本校も学校改革が急速に進行中で、本年度の学校目標の骨子は『①生徒一人ひとりの進路実現に向け組織的指導体制②指導法の工夫・研究から授業改善を図り学力向上・充実③文武両道の校風のもと学校行事・生徒会活動・部活動等、生徒の創造性や主体性を伸ばす④環境衛生や安全対策の推進⑤開かれた学校づくりと信頼される学校づくりに推進する』というものです。プライドを胸に日々精進している秦高生に「現状維持は退歩につながり挑戦こそが前進」と、伝統にあぐらをかくことなく、本校の教職員が結束をして生徒一人ひとりを多面的な視点から導き、自己実現や進路実現を支援していくことが本校の活性化です。今後ともご支援ご協力をお願い申し上げます。

秦野高校よ、永遠に輝け

とわ
前校長 早野通哲



秦野高校二年間の在職期間は愉快な緊張感の連続でした。生徒諸君の活躍も目覚ましいものでした。部活動、学校行事、進路実現等に総合的に取り組んだ実績は県下屈指のものです。これは生徒や教職員の日々の精進の結果でもありますが、何よりも同窓会の皆様による文字通り物心両面にわたる温かいご支援の賜物と、心から御礼申し上げます。

本校百年の伝統「質実剛健・文武両道」とは、社会に貢献する、リードするという高い志の実現のために、己を

甘やかさず日々チャレンジするという熱い心、幅広い人間性であると思います。優勝したから素晴らしいのではありません。この質の高い精進が温かい人間性、素晴らしい生き様として現れているから、秦高生は心底頼もしいのです。将来の社会を担う人材の育成は本校草創以来の人々の期待であったと思いますが、そういう秦野高校の教育に幾分なりとも関わられたことに、私自身微力を恥じつつも大いに感謝しております。

困難な課題を克服し、自己の人生を切り拓くたくましい力の育成が求められる昨今です。学校としては、脈々と受け継がれる伝統に自信を深めつつ、個々の生徒の資質を適

確に把握・伸長する体制づくりと日々の実践を更に厳しく重く追求していかねばなりません。今後とも皆様のお力を後輩生徒諸君のために賜らんことを切にお願いいたします。終わりに、同窓会と会員諸氏の一層のご発展を祈念し、感謝の言葉といたします。

平成16年度 総会報告

秦野支部

榎本圭治 (高2)

平成16年8月28日(土)午後2時から、秦野商工会議所大会議室で秦野支部担当幹事

で総会が開催される。準備には支部役員が数回無い知恵を絞り出して協議する。そのポイントとは、会費、アトラクション、参加者問題であった。会費の低額、会費無用論まで

飛び出したが、懇親会は親交を深め、旧知を温める機会となつていくことから本部費用のみでは運営できない事情から最小必要額で落着く。

アトラクションでは、母校の在校生、OBによる発表会形式を観賞することに意義があることから「教師とOBによる発表会」に決まる。出演者は玉置清明先生の独唱、新妻美さん(高1)のヴァイオリン、新妻和音さん(OB)のピアノ、古川貴子さん(OB)のピアノそれぞれの独奏でオープニングに相応しいミニコンサートであった。清寂の情、清廉の気を残しつつ、総会へと進んだ。

出席者は、同窓会員55名(秦野支部30名、平塚支部4名、東京支部2名、伊勢原支部8名、南足柄支部7名、小田原支部2名、藤沢・茅ヶ崎支部2名)、学校職員4名、

計59名であった。

参加者は旧制中学、高校初期卒業者の年輩OBが多く、若年会員、女性会員が少ない現況から今後の課題として議論することが必要である。



支部だより

秦野支部

久保寺富男 (高11回)

同窓会林造林記念碑のこと

2004年も押し詰まった12月25日、菩提菜の花台の同窓会林に設置されていた造林記念碑が、真壁グラニツト(株)の手によって、秦野高校内の庭園の一角に、移設された。

創立七十周年の記念事業の一環として、菩提生産森林組合の所有地に設置したのが、おおよそ十年前。当初、菩提生産森林組合側は木製の物ならということであったが、膝詰め談判の結果、合意が得られ現在の形が諒解されたが、契約終結の時は、撤去することが、条件であったため、このようになったものである。

当時、私は造林記念碑建設の責任者として、石材の選定から、揮毫者の依頼などに奔走したことも記憶に新しい。日展の書家、中原茅秋氏を何度も訪ね厳しい日程の中で、何とか揮毫していただき、現地に設置、除幕式を真近に控えたなかで、表面のデザインが発注した形と少し異なり、急遽作り直しをせざるを得なくなり、同様の石材を求めて、業者は栃木県まで行って何とか同じようなものを調達し、除幕式に間に合ったという、スリリングな話も、今では懐かしく思い出される。

本来なら、同窓会林があった、菜の花台にあって始めて、記念となる碑であるが、考えてみれば、人目につかぬ山中にあるより、多くの人々や、生徒達の、日常目に触れる場所にあったほうが、その経緯が見えるというものであるとおもう。

戦後六十年、「報国」という言葉も死語となりつつある中で、先輩たちが、報国造林と言う名の事業に携わったことを後世に伝え、偲ぶよすがとして、校庭の一隅にあることも良いのではあるまいか。

平塚支部

関 恒久 (高19回)

平成十六年五月二十九日に平塚市民センターで、支部の役員会を開催した。野川義雄支部長のあいさつに続き、報告事項として、一、支部役員

の近況について 二、母校同窓会役員会の報告 三、会計報告が行われた。議題として、一、役員の一部改選について 支部の副支部長で母校同窓会の会計監査の和田正毅氏(高3)が健康上の理由で退任の申し出があり、後任として副支部長に鈴

本栄一氏(高2)を、本部会計監査候補として清田宰宏氏(高4)を選んだ。

また、支部役員若返り化についても話し合われたが、継続課題となった。二、支部の事業、その他について検討を行った。その後、会場を移して昼食会で、清田宰宏氏の叙勲を祝し懇談した。

本支部の役員として永年御尽力された和田正毅氏が平成十六年七月九日享年七十一で亡くなられました。御冥福をお祈りいたします。

藤沢・茅ヶ崎支部

内堀昌治 (高3回)

昨年支部全員に同窓会の活動について御相談致しましたところ無返信八十九名、不明三十九名、不参加五十三名、参加十七名でした。結果から思案してましたら地方の仲

間から入会希望があり、元運動部の久保寺勇さんの少人数でもい、から等と積極的な連絡もあり顔合せにゴルフで一日楽しく語り過ぎました。続行希望の十数名については、実行出来る計画をして早期に実現したいと思っております。昨年秦野支部主催で盛大な総会が行われ、参加する度に忘れかけていた人達との再会は嬉しいものでした。以前私事ですすが私の会社に、トプコンに勤務し測量器械の売り込みに来た若い人に、出身校を尋ねたら秦高ですの一言。多額の品物の注文をしてやった思い出があり、これが同窓なんだと思えました。世代を越えた仲間とこの社会の中で色んな面でお互いに活用しあい、又助けあい乍ら横の繋がりを広め、支部を充実させ発展させたく皆様の力添えを頂きたいと期待しています。

東京支部

深田源次 (中21回)

東京支部は別称在京広畑会とも呼び、それなりの理由があつてのことであるが、とにかく創立後二十数年を経過した。そして二年ごとの総会・懇親会を今年は二月九日夜、いつもの都内から場所を母校に近い小田急線愛甲石田駅近くのフォーラム246に変えて開催した。都内からの参加者にはご苦勞をかけましたが、同沿線の会員の便益にもなり、遠くは熊谷市、熱海市からの参加は喜ばしいことであつた。

での在勤、在住者の入会を歓迎する次第です。

なお当支部はこのたび深田法律事務所の移転に伴い、事務局を左記に移転しましたのでお知らせします。

町田市森野1-39-16一樹

ビル5F B深田法律事務所

☎〇四二-七一〇-三八五五

伊勢原支部

賀川義光 (高6回)

同窓会総会に出席しよう！
本年は、伊勢原支部の当番で本誌冒頭のご案内の通り、伊勢原市民文化会館で開催します。

支部会員の皆様には、同期の仲間と誘い合い有意義な一時を過ごして下さい。

支部の動きは、さる4月2

日支部総会を開催し16年度事業報告、決算報告、又総会当番支部としての対応等活発な意見交換が行われた。

支部も4名の有能、闊達な新役員を迎えることが出来支部の活性化が楽しみです。

又、昨年も支部役員の研究と親睦を深めるバス旅行を11月15日、箱根、伊豆方面を日帰りで行いました。

市営駐車場7時30分出発予定も全員早い集合で、10分も早く出発、平塚SAで早くも？タイム。早くも皆意気投合し以降のんびり箱根関所、

葦山反射炉の史跡の見学、先人の偉業に敬服し、長岡温泉での昼食、入浴は本当の裸の付き合い？柿田川湧水を見、帰省、今年も奮って参加を！

南足柄支部

端山昭夫 (中18回)

南足柄支部は、会員各位のご協力のお陰で、支部の運営も順調に進んでいます。まだまだ新前の身でありますので、各支部のご支援を今後共

によりしくお願いいたします。六月に支部総会を開催し、

その折に会員の内より一名講師をお願いし、その方の人生の歩みや、得意とする分野の有意義なお話を聞き、視野の広がる思いをしております。また、パークゴルフ大会を行いました、和気あいあいとお互いの交流を深めておりますし、忘年会、

新年会等、行事を持ちながら今後の会の在り方などを話し合いながら、会員の支援のもと活動を展開しております。

秦野高校に学んだ「縁」でお互いに知り合い、友人を得ることができました。だから自分の周囲にいい縁を結び、縁を最大限に生かすよう心がけ大切にしていきたいと思っております。しかし、学区制の下で新会員が少なく、今後の会の運営に困難が予想されることとが気懸かりです。

小田原支部

稲木 貢 (中20回)

小生が秦中に入學したのは昭和十八年四月です。その時当地は、足柄上郡桜井村西栢山と称していました。卒業したのは昭和二十三年三月です。卒業以来、上郡の同期が集まつて、年に一回宴会を開いてきました。戦後住所は小田原市となりましたが、小生の気持は上郡として過してきました。四月三日の同期会で、柳川会長他から小田原支部の活動の活発化について発破をかけられ、現在どうしたらよいか考えているところです。先ずは地域に在住している卒業生に連絡をすることだと思っております。活動については当地域の実情は分っていますので、会として奉仕できることを積極的に行ってゆくつもりです。

秦中。秦高在職中の想い出

自転車と

ランニング

久保真一(社)

新採用で赴任して5年間のうち、2年目から自転車で通勤するようになり、今日まで続いています。きっかけは新入生のクラス担任になった最初の遠足でサイクルスポーツセンターへ行ったことです。はじめて乗ったドロップハンドル車のスピードに魅せられ、当時は平塚も学区で生徒諸君も多くはチャリ通だったのでルートも教えてもらいました。茅ヶ崎からは遠いようですが、平塚までくればみんなと同じです。花水川沿いのサイクリングコースを北金目から東海大の方へと入って行くので、最後の坂はなかなか

のものですが、バスと違って遅刻の心配もなく、トレーニングにもなりました。生徒会主催の映画会でピエトロ・ジエルミの『自転車泥棒』を体育館で見た後、教室で「ラストシーンの子どもと父親との姿は本当に泣けるよね」と話しました。ある女生徒が「クボちゃんはチャリ通だし、子どもも小さいからね」と「納得」してまわりの子にしゃべっていました。

親の強さを感じた」という感想(年間最後の授業で匿名で書いてもらったもの)に苦笑したことをなつかしく思い出します。

「物事はバランスが大切」という「真理」を超えるような個性やエネルギーがあふれていたのが当時の秦高だったように感じています。

心の ふねわん

榊本陽一(理)

京都で生まれ育ち、親と家を残して、単身で秦野高校に赴任しました。校長面接の時、

秦野市内のアパートを世話して戴き、初めの一年間、ここに住みました。私が赴任した年は、共学になって2年目、まだ3年が男子だけの学年で、男子校の雰囲気色が濃く残っていました。教えているクラスは殆どが男子クラスでした。生徒は、授業終了後、気さくに笑顔で話しかけて来て、親しくなり、よくアパートまで遊びにきました。四畳半の狭い部屋に男ばかりギツシリと詰めかけて、トランプゲーム他、殆ど毎日のように夜遅くまで居ました。先輩の先生方からも、着任初日から「おめえよ」と親しく話しかけて戴きました。生徒達も先輩の先生方も「おおらかさ」に満ちあふれていました。そのどれもが新鮮な感じがして、初めての自活生活の不安は無くなりました。その後、8年間在職し、その間に、親切にして戴いた先生方や生徒達から、仕事のみならず、多くの趣味を教えてくださいたり等、貴重な経験をしました。

秦野高校を離任後、教校を得て、現在5校目の学校に勤務しています。それぞれの学校でさまざまな体験をしました。これまでの人生観を変えさせられるような大事件が連発し、その対応に埋没した学校もありました。また、連日、教材研究等に追われる学校もありました。そのいずれにも耐えられたのは、秦野高校時代に体験した「おおらかさ」があったからこそだと思えます。もし、赴任の順番が違っていたら、全く違った人生を送っていたかも知れません。秦野高校が最初だったからこそ今の自分があると思えます。今後とも、秦野高校は私にとって、単に一赴任校では

なくて特別な学校であり続ける われる計画を立てて実行して ことと思えます。

振り返れば いつもそこに

杉岡厚誌(国)

「おれ、何が何でもW大に入
って野球をやりたいんです。」
クラスの進路相談で、こう
語ったのはO君でした。野球
部の彼はピッチャーで四番打
者。投打の中心でした。

厳しい練習のため、帰宅も
連日八時過ぎ。もちろん土曜
日も日曜日ありません。で
すから、家での勉強時間はほ
とんど無し。成績もW大合格
には、ほど遠いものでした。
ただ、彼には合格したいと
いう熱い思いがありました。
そこに、私は賭けてみたので
す。これまでの成績の結果を
分析し、合格するには何がど
れだけ必要かを二人で考え、
今の彼の生活の中で最善と思

もらいました。

もちろん、最初からうまく
行くはずがありません。何度
も何度も行き詰まりました。
そのたびに、じっくり話し合
って立て直したものです。

勉強がスランプに陥ると、
彼が大学に入って野球部で活
躍する姿を互いにイメージし
合って、励ましました。

こうして彼は念願のW大に
合格し、野球部員として六大
学の大会に出場したのです。

《秦高》と聞くと、いつも
O君のように印象的な生徒が
何人も思い浮かびます。

新米の教員として秦高に赴
任して十五年。この間、たく
さんの生徒を教えてきたつも
りでいました。しかし、実は
多くのことを、彼らから教え
られてきたのです。

その後、定時制そして養護
学校と異動のたびに、秦高で

学んだ進路指導や教科指導か
らは縁遠くなってきました。

しかし、秦高で身に付けた
生徒と共にという姿勢は、今
も失われていないようです。

何かの折に、ふと自分の歩
んできた道を振り返ることが
あります。するといつもそこ
にあるもの——それが私にと
つての秦野高校なのです。

秦野高校に

感謝

岩瀬充璋(理)

なんとと言っても一番印象に

残っていることは創立七十周
年の記念行事です。周年記念
行事を担当するのは初めてだ
し、どんなやり方をしたらよ
いか分かりませんでした。そ
こで、他の高校の周年行事を
見学させてもらい参考にして
企画しました。また、記念誌
を出すにあたって各種資料を
読ませていただき、先人達の

偉大な足跡に感服いたしました。
た。記念誌をまとめるのも一
苦勞で、式典までに何とか問
に合わせる事ができたこと
を思い出します。神奈川新聞

に特集記事を載せてもらうの
にも、同窓会の方達に大変な
お骨折りをいただきました。
改めてここでお礼を申し上げ
ます。記念式典は新築の体育
館で行いましたが、祝宴が始
まる直前に大きな地震があ
り、テーブルが1つ倒れてし
まって慌てたことも、今とな
れば良き思い出です。

部活動では写真部や化学
部、ソフトテニス部の顧問を
していました。化学部の生徒
達とNHKの3チャンネルの
テレビ番組に出させてもらっ
たことも強く印象に残ってい
ます。生徒達は遠くまでジュ
ースの空き缶を集めに行っ
て始めで、慣れないから何

回も振り直しをしたり、暑い
なか煉瓦で炉を組み、コーク
スでアルミ缶を溶かして鐘を
造りましたが、1回目はあま
りの熱さでステンレスの容器
が溶けてアルミが流れ出して
しまいました。2回目でもやっ
と完成。生徒達も汗だくでし
た。出来た鐘は二〇センチを
越えていて歓声が上がしまし
た。

平成元年に秦野高校に着任
し、今年の3月に定年退職を
しました。教員生活の最後を
16年間という長期にわたり、
秦野高校で大過なく過ごすこ
とができたのも、生徒達に恵
まれ、同僚職員、同窓会の諸
先輩方の温かいご指導、ご支
援の賜と感謝しております。



空晴れて 広畑が丘 秦中・秦高に想う

武田先生の

思い出

柳川三郎（中17回）

私が旧制秦野中学に入学したのは昭和十五年四月のことであった。前年までは定員百名で、私たちのときから定員が百五十名となった。いちど

に五割も増えたのだから、その分質は落ちたはずである。

私は武田治三郎先生が担任の甲組に所属した。当然、国語の担当は武田先生である。先生の指導は厳しく緻密であった。私は先生の指導に素直に従い、漢字の書き取りなども一所懸命勉強した。私は漢字には比較的強いと自負しているが、それはこの時の勉強のお蔭だろうと思っている。

私たちは一年上の先輩と成績を比較され、先生方からとやかく言われることが多かった。武田先生は担任として愛着をお持ちのせいか、そういう言い方はなされなかった。当時、入浴については私は銭湯を利用していた。秦野の東道にあった「竹乃湯」である。そこで先生にお会いすることが度々あった。そのとき漢字の読み方、書き方を話題にすることもあった。今でも

鮮明に覚えているのが島嶼の読み方である。トウシヨと読むのが正しいのだが、嶼をヨと読んだり、コウと読んだりする人が多いという話を話し合った。漢字の書き方、読み方が話題になるときは、いつも武田先生のことを思い出すことである。

綺羅星のいっし

永遠の恩師群

武 勝美（高7回）

入学式、それとも入学説明会だったろうか、キリュウさん（体育・桐生先生）の「諸君は―」という言葉とその声に、心の高ぶりを感じた。「俺たちは『君たち』ではない。『諸君』なのだ。」その高ぶりは大人として認められた喜び。綺羅星の如き先生たちを「さん」づけで呼び、背伸びしていた年代だった。イサヤマさん（幾何・伊佐

山先生）「そんなこっちゃダメだ」といつも言われていた。証明問題の答えを丸暗記して試験に臨んだが、赤点！イッチャン（地理・飯田先生）黒板に描く一筆書きの世界地図に憧れ、真似た。10をもらったつけ？イモさん（英語・今井先生）校内模試の採点で模範解答以外は全て×。当時は「イモ、この野郎」と恨んだ。だがその徹底ぶりが後に役に立った。オオダテさん（数学・大館先生）数学クラブの顧問。なぜか私もクラブ員だった。放課後「補習」のような活動をし、数学と英語の面倒をみてもらった。昨夏、先生を囲んでクラブ員が集まった。髭が濃いので「山賊」！（乞う・お許し）シノさん（英語・宮本先生）博学！平安時代の便所の話は忘れられない。「遅く来たから早く帰る」と、古びたコートを翻さ

せて帰る個性的で、実はシャイな先生。チョーフィー（古文・杉山先生）ご機嫌なときは「ロングウインド」などと笑わせた。前田夕暮の存在を印象づけた「長風大先生」。眼鏡の奥の瞳はいつも優しくかった。テンコちゃん（現文・小野先生）美形の横綱・吉葉山のファンで、その手形の色紙を見せてもらった。今、私が「小諸なる古城のほとり」を諳んじられるのは、典子先生の「職員室呼び出し暗誦」のお蔭。ラジオ（英語・貴田先生）「口角泡を飛ばす」して説明するため、教卓の真下の加兵ちゃん（同級生）は飛沫を避けようと教科書で屋根を葺いていた。キューさん、ウーちゃん、ハブさん、ポンちゃん、ウダガワさん、一正さん、シライさん等々、多士済々の面もこの星団を作っていた。

校舎改築中の

三年間

吉田信男（高17回）

私達が在学した時代は、日

本の高度経済成長の始まりで、校舎改築、理科棟体育館の建設で、校庭も旧校舎解体等で手狭く、校外で出来るマラソン大会と陸上記録会以外の体育行事は三年間一度も無かった。

「団塊の世代」の先駆けで、永い200人定員から300人定員へ急増。また時代を反映し、学校で二輪車免許取得講習を開講し、自転車とともに自動二輪を通学手段に利用した仲間もいた。そんな中でも三年の秋、体育館落成の記念講演は、言語学の大家金田一京助博士で、その学問への情熱に胸が熱くなったのを今でも鮮やかに思い出される。

文化祭は毎年あった。演劇部が熱演した「若年」に惜し

みない拍手を送ったし、私も数学部員として当時流行った「水道方式」の解説や幾何の問題に夢中で挑戦した。また、陸上・野球・柔道部等が急速に充実した時代でもあった。

そんな中で私はマラソン大会に三年間精一杯挑戦した。毎年約100秒くらい短縮し、走る喜びを知った。込山先生に「武井程精一杯走ってるやつは無い」と褒められ、大学進学後走り始め40年間走り続けている。マスターズで日本新を出せたり、神奈川国体で陸上競技総監督として天皇・皇后両杯獲得を役員・選手団と喜び合えた幸運も、全て秦高時代の巡り合いと伝統の賜と感謝している。

秦高女子の純粋で

美しい涙に感激

久永幸男（高27回）

「キャー・ウォー」という

大歓声とともに2校の選手がほとんど同時にゴールインした。僅か1メートルの差で秦高女子の優勝だった。

私は、昨年11月6日（土）、丹沢湖で行われた神奈川県高等学校駅伝競走大会に、競技役員として参加していた。レースは、1区でトップに立った秦高女子と、6連覇を目指す白鵬女子が最終区まで譲らずのデッドヒートを展開。15年ぶりに京都市の切符を手にした秦高、胸の差で京都市行きを逃した白鵬、両校の選手が一斉に泣き出した。

その光景を見て、私は、目を熱くしながら、30年前の高校時代、秦高陸上部のテントの中で、人に見られないように独りで泣いていた自分を思い出していた。

その年は、関東駅伝大会に出場するため6位入賞を目指していたが、結局、エース区

間を走った自分が大ブレイクをしたために、出場権を逃してしまったのだ。あの悔し涙が昨日のことのように思い出された。しかし、今となっては懐かしい。あとき流した涙は、その後の人生にとっても大きな役割を果たしている。

丹沢湖で見た彼女らの涙は、とても純粋で美しく、心に響くものだった。嬉し涙、悔し涙、高校時代にたくさん涙を流してほしい。

時には卒業

アルバムの中へ

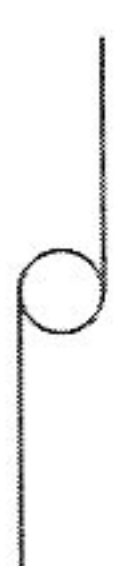
荒川一範（高27回）

本棚から引っ張り出してきた「卒業アルバム」。緑色の布の装丁。表に「広陵」の金文字、「一九七五」の銀文字。裏に校章。表紙をめくると「第二十七回 卒業記念」と書かれている。その右側に正門からの大きな写真がある。

（唯一のカラー写真である。）現在の風景から見ると、大変懐かしく感じられる。これが、秦高時代に入っていくタイムトンネルの入り口である。

持ち物は、心のドラえもののポケットにちゃんと準備できている。一つは、庭球部の「グラウンドコート」、二つ目は、一万米競争の時にもらった「茶碗」、三つ目は、美術部で初めて画いた静物画の「油絵」、四つ目は、北海道への修学旅行の時の木彫の「熊」……。

「二十七期生の諸君、元気ですか」今、体力的にも精神的にも、しんどい年齢を迎えています。心のドラえものポケットに思い出の品を入れてみませんか。時には、ひと休みして、振り返ることも大切なことかもしれません。



『天秦爛漫』

広陵祭

2004

顧問 上原清則

授業の合間を分単位で駆けずりまわった実行委員との日々。中庭発表、教室発表……すべてが燦然と輝くエネルギーを放射していました。

今回の広陵祭は、前回の企画をさらに強めて、従来の飲食中心になつてしまった「消費の場」から、秦高生だからこそできる「工夫」が味

こんにちは

わえる「創造の場」へという願いから始まりました。生徒の実行委員長森谷善隆クンの超人的な頑張りやそれを支えた各実行委員会総務の生徒たち。秦高らしく、生徒たちが今回の広陵祭の方向性を

2年次から構想していました。

企画審査も彼らは精力的に行い、しっかりと企画内容で出発せようと、夜遅くまで、時には校舎施設後の玄関前で2時間位話し合っていたり、早朝から激論をたたかわせていたり……。そんななかから初めての試みの全校宝探しも発案され、校舎内に隠された宝を見つけその合計点で



開会式での企画のPR時間を決めるというゲームでした。

その結果、5秒のところや30秒以上のところなど、さまざまでしたが、各代表は制限時間を精一杯使っていました。

師走の『都大路』を駆けぬける

全国高校女子駅伝

顧問 内藤篤史

花束を

一人ひとりに 渡す時

十余名に上る長距離部員の報われぬ努力が遂に一秒を生んだ瞬間だ。

京都 かけ抜けし顔 顔浮かぶ

榎本節子(高7回)

秋色に染まった山北町丹沢湖での県高校駅伝は、一秒を制する劇的な勝利で十五年ぶり二回目の全国高校駅伝出場

の舞台となった。万全ではなかったチーム状況の中、第一回大会に出場してから約百四

大成功でした。

広陵祭全体では前回以上に飲食のあり方を含めて「工夫」がなされ、目的を達成できたと考えます。生徒・職員・PTAの皆様へ感謝致します。

『秦野高校で駅伝がしたい』の想いで二時間の通学時間をかけて通う者が多数、必然的に練習時間は減っていった。その分、練習は緊張感に満ち生活そのものが練習の場となった。周囲の甘えを断ち、全てが『駅伝』という二文字に注がれる情熱は計り知れない。

チームとしては初陣の京都都大路はあまりにも壮大で未

知るなる舞台であったが、その中で走る部員の姿は眩しく自信に溢れていた。結果はチーム記録を更新する二十六位。ベストは尽くせたがまだ上がある。目標はただ一つ、県高校駅伝二連覇、そして全国高校駅伝入賞、やる時が来た。





母校から

躍動する若鮎たち チアリーダーディング部

顧問 北尾英夫

私たちがチアリーダーディング部・VIGORS(ヴィガーズ)は、3月に開催された大会「9th USA Nationals in Japan 2005」で2位になりました。昨年までは悔しい思いをし

ましたが、今年は「絶対に最後まで行こう」を合言葉に頑張りました。練習では、OGの方々などから貴重な時間をさいてアドバイスをいただき感謝の気持ちでいっぱいです。

部員達は、沢山のものを犠牲にしながらも、練習に励みました。怪我も少なくありませんでした。それでも皆チアが大好きなので、最後まで頑張ることができました。

ファイナルに残った時と2位に入賞した時の感動を忘れることなく、これからもチアリーダーディングを極めていきます。これからのVIGORSは、もっともっと素敵なCHEER LEADERになれると思っています。

平成16年度 部活動大会結果報告

部活動名	大会名	結果	部活動名	大会名	結果
陸上競技部	県高校総体	女子3000m 2位, 3位 関東大会出場	弓道部	高校総体県予選	3位(個人) 5位(団体)
	県高校陸上競技大会	女子3000m 2位 (県) ベスト8		関東個人選抜県予選	(県) 4位(個人) 関東大会出場
	東日本女子対抗駅伝	2名出場		青少年武道錬成会	3位(個人)
	県陸上選手権大会	女子3000m 優勝 ベスト8		県新人大会	5位(個人)
	県新人大会	3位(女子砲丸)、4位(女子槍)、 関東大会出場		県新人大会	優勝(団体) 東日本大会出場
	横浜国際女子駅伝	2名出場		全国選抜県予選	2位(団体) 6位(個人)
	県高校駅伝大会	(女子) 優勝全国大会出場(26位/47) (男子) 第6位関東大会出場		インターハイ県予選	県ベスト8
ソフトテニス部(男子)	関東大会県予選	第3位(団体) 関東大会出場	バスケット部(男子)	関東大会県予選	第3位 関東大会出場
ソフトテニス部(女子)	関東大会県予選	(団体) 第3位 関東大会出場		国体関東ブロック大会	国体関東ブロック 出場(個人)
	関東大会県予選	(個人) 第3位 関東大会出場(2組)		県新人大会	優勝 関東大会出場
	県民体育大会兼 国民体育大会県予選	(個人) 優勝 全国大会出場		関東選抜大会	関東選抜大会出場 (個人)
	インターハイ県予選	(ベスト8) 全国大会出場(1組)		水泳部	関東大会県予選
	国民体育大会 最終選考会	2位 関東ブロック大会出場	山岳部	関東高校登山大会県予選	優秀校 関東大会出場
サッカー部(男子)	県新人大会	(団体)優勝(個人)優勝 関東大会出場	かるた	県かるた大会	H級優勝 関東大会出場(1名)
	インターハイ県予選	ベスト8		全日本下の句 かるた選手権大会	全国大会出場
	全国高校選手権県予選	3位	囲碁	全国高校囲碁選手権 県予選	男子2位(団体) 女子2位(団体) 関東大会出場
県新人大会	ブロック優勝 (ベスト8)	県高校秋季大会		女子3位(個人)	

寸描 母校2004年度

進学カルテ

— 目的意識を持ち、志望校を決定 —

進路指導部 新津俊哉

二〇〇四年度卒業生349名の進路状況を報告いたします。

四年制大学進学者65%、短期大学進学者9%、専修・各種学校進学者6%、就職者1%、進学準備等（浪人等）20%以上が二〇〇四年度卒業生の進路内訳です。

具体的な大学・短大等への合格状況は左表をご覧ください。

少子化が進む中、各大学は生き残りをかけ、独自の特色を出すべく再編に力を注いでいます。明らかに買い手を意識した動きであり、それに伴う入試の複数化と多様化など状況の変化が目に見えて明らかになってきたように思います。売り手側も自分に対してどのような付加価値を付けてくれるかという観点で志望校を選ぶようになってきたように思います。

一見すると別表の主な大学・短大合格者数の数値に大きな変化は見られませんが、

特色ある学部・学科を持つ大学への志望者は確実に増えています。

進路指導部といたしまして、昨年度同様、予備校と連携した模擬テストの実施など受験指導を行うことと併せ、今年度は、大学・短大や専門学校卒業後のいわゆる「社会に出た時の自分を想像させた進路指導」を意識しました。

具体的には職場体験や現場で実際に活躍しておられる方々を招き「生の声を聞く」など多方面に渡る方々のご協力により実施してきました。

その結果として、「ただ何となく〇〇大学に入りたい」という者が減り、明確な目的意識を持ち、志望校を決定し、受験に臨む者が多くなりました。このキャリア教育と呼ばれるものは、受験に対する準備という点やVISIONを持たせるとい意味でも、早

期に実施すれば進学校でも効果が上がると思われれます。そこで、本来なら今年度の受験のご報告をする場であるこの紙面を利用して頂きお願いしたいことがございます。

社会に出たばかりの卒業生からよく耳にします。不安でいっぱいな時期、「上司に「君は秦野高校出身か、私も」と温かな声を掛けられ安心した」と。

各方面で中心となって活躍しておられる諸先輩方が、自らの貴重な経験を生の声として母校の教室で語って頂けたら、生徒らにとってこの上ないキャリア教育となると思います。そのような意味で本校同窓会の厚さや懐の深さは大きな財産であり、頼もしい存在であります。今後とも後輩らに温かいご声援をお願い申し上げます。

2004年度卒業生の進路状況

受験先	受験者	合格者	受験者	入学者内訳			
				一般入試	指定推薦	公募推薦	AO推薦
国立大学・文系	13	4	4	4			
国立大学・理系	29	15	15	13		2	
公立大学・文系	12	7	6	4		2	
公立大学・理系	2	1	1	1			
私立大学・文系	736	267	123	88	28	3	4
私立大学・理系	439	196	78	48	20	7	3
大学小計	1,231	490	227	192	48	10	7
国公立短大	1	1	1	1			
私立短大	52	43	29	12	15	1	1
短大小計	53	44	30	13	15	1	1
大学校	2	1	1			1	
海外の大学	1	1	1	1			
専修・各種学校	20	20	20	11	2	8	
就職	2	2	2	2			

2004年度 主な大学・短大合格者延べ数

大学名			現	浪	大学名			現	浪	大学名			現	浪
国立大学(4年)					杏林大	2	2	明治学院大	16	1				
					国立音大	1		立教大	9	3				
東北大	1			慶應義塾大	4		早稲田大	12	4					
茨城大	2			工学院大	11	3	麻布大	3						
筑波大	2	1		国学院大	7	3	神奈川大	33	5					
宇都宮大			2	国士舘大	6		神奈川工科大	4						
千葉大	1	1		駒澤大	8	5	鎌倉女子大	3	1					
東京海洋大	1			芝浦工業大	6	1	関東学院大	4	2					
電気通信大	4	2		順天堂大	1		相模女子大	2						
東京医科歯科大	1			昭和女子大	2		東京工芸大	2						
東京学芸大			2	昭和薬科大	1		東洋英和女子大	2	1					
東京芸術大			1	成城大	6	1	新潟薬科大	1	2					
東京工業大	2			専修大	14	9	藤田保健衛生大	3						
東京農工大	2			玉川大	11	1	短期大学(公・私)							
横浜国立大	2	1		多摩美術大	1	1								
山梨大			1	中央大	32	14	神奈川県外語短大	1						
京都工芸繊維大			1	津田塾大	1		青山学院女子短大	7						
琉球大	1			帝京大	5	1	昭和女子大短大部	2						
公立大学(4年)					東海大	24	8	東京家政大短大	2					
					東京工科大	2	1	東京農業大学短大部	1	1				
群馬県民健康科学大	1			東京電機大	2	3	立教女学院短大	2						
首都大東京	3			東京農業大	11	1	相模女子大短大部	2						
神奈川県立保健福祉大	3			東京薬科大	1	2	上智短大	2						
横浜市立大	1	1		東京理科大	9	3	湘北短大	6						
私立大学(4年)					東洋大	7	1	東海大医療技術短大	4					
					日本本大	20	11	横浜女子短大	2					
青山学院大	20	6		日本女子大	3		国公立大学							
桜美林大	6			日赤看護大	1	1								
大妻女子大	3			文教大	3		私立大学							
学習院大	6	2		法政大	24	7								
北里大	4	7		星薬科大	1		短期大学							
共立女子大	2	1		武蔵工業大	18	4								
共立薬科大	1			明治大	22	12	合計							
														27
								456	150					
								44	2					
								527	164					

同期会だより

過ぎにし半世紀 有余年。感無量

杉山啓治（中19回）

昨年9月12日、中学19回期の同期会を秦野市内の鮎店で開催。幹事は4地区の輪番で、今回は秦野地区が担当で年1回開催している。私達の卒業は前期・後期に分かれ、昭和21年と22年になる。在学中、太平洋戦争に遭遇し、授業は中断、市内の工場で戦闘機の部品を造る日々が続いた。また軍事教練と称される実戦に対処する授業を受けた。さて、当日は秋晴れに恵まれ、参加者28名が顔を揃えた。前夜、秦野に泊まり参加の県外の級友もあつた。恩師は、大島信六先生が横浜からお出で頂いた。開会の前に全員の記念撮影

と他界された恩師・級友に黙

祷を捧げた後、開会。大島先

生は既に80歳を超えておられ

ると思うが、起立して大きな

声で挨拶された。足腰を多少

痛められておられる様だった

が、お元気であった。先生の

今後のご健康をお祈りしたい。

自己紹介、乾杯、歓談と進行

し、各テーブル毎に過ぎ去り

し、半世紀有余年を偲び、思

いを馳せ、感無量の境地に浸

った。また、旧交を温め合い、

お互いの今後の健康を祈りあ

った。4時近く、全員起立し

て校歌を合唱した。「広畑が

丘 空晴れて」の歌声が会場

内に響き渡った。まさに「青

春回帰」の一齣であつた。閉

会のことばの後、次回、小田

原地区での再会を期して、各

自家路についた。末筆ですが、

母校と本同窓会の更なるご発

戴し厚くお礼を申し上げます。

長名から

短名でも長い

高橋 旭（高1回）

「広陵二〇一会」。学校制度

に伴い、旧制中学校二十回と

新制高校一回の卒業が同期と

なつたため、同期会も「秦中

二十期・秦高一期同期会」な

どと長い名前で開催していま

したが、あまりにも長い名前

なので何年か前、二十回と一

回を振って省略型の会名にし

てしまいました。

同期会も大分前から実施し

ていましたが、還暦を迎えた

頃から毎年開催しようという

ことになり、幹事地区を決め

箱根湯本の温泉宿を探しなが

ら、一泊の同期会を開催して

おります。昨年

本「春光荘」で開催しまし

た。我々の仲間も既に二割近

くが他界し、お世話になつた

恩師の方々もお亡くなりにな

つたので、昨年も恩師不在の

同期会となつてしまいました

た。それでも40名程度の仲間

が集まり、戦中戦後を共に過

ごした想い出話に花を咲かせ

旧交を温めました。翌日は、

これも恒例によつて、ゴルフ

好きの連中が集まり、小田原

湯本カントリークラブでコン

ペを行いました。このコンペ

も昭和48年に始まり、途中中

断もありましたが、年3回の

ペースで50回になろうとして

います。当初は4組16人程度

の参加がありました。最近

は体調不良の人も出て、12人

程度に減少してしまいました

た。でも参加している者は皆

元気です。今年の同期会は、

同窓会事務局

からのお知らせ

同窓会本部では、同期会を

開催する際、祝金一万円を贈

呈します。次の役員が窓口にな

つています。

●秦野市ひばりヶ丘5-23
榎本圭治 事務局

(0463)817382

●伊勢原市桜台1-15-14
喜多 実 副会長

(0463)931091

●平塚市四之宮3-11-13
松永幸夫 副会長

(0463)554792

同期会への祝金

平成16年度贈呈同期会6団体

中18回 酒井弘治（代表者）

中19回 杉山敬治（代表者）

高1回 高橋 旭（代表者）

高2回 飯田悦郎（代表者）

高4回 中原 宏（代表者）

高6回 浅田忠男（代表者）

書道のバリエーション

中原重利



当時、書道の授業を担当されていたのは、杉山長風（茂夫）・宮本沙山（信義）の両

師であった。高校の三年間ずっと書道の授業でお世話になったが、特に書道が好きだったから選択したのではなく、他の選択科目（漢文、音楽、美術）より少しは手抜きが出来るだろうという単純な怠け心から選んだものだった。

授業の中では、照心書道会発行の「照心」という競書雑誌を教材とし、それに出品を推奨された。私も毎月末に清書を書いて提出し、昇級するのを楽しんでいたが、他にもかなりの人達がこの競書誌に出品し、書道が盛んだったと記憶している。当時両師は、照心書道会の理事という役職に就いておられたので、このような計らいをしてくださっ

たのだろう。この計らいが私にとって書の道を歩むようになった大きなきっかけになったのだから、今更乍ら有難いことだと感謝している。現在ではこのような粋な計らいをしてくれる公立高校は少ないだろう。それどころか書道の授業そのものを採用している学校が減ってきていると聞く。小学校でも時間表に「書写」と入れてあっても実際には他の教科を当てている所もあるという。書道離れが進み、筆を持つ機会が少なくなっている昨今である。今やパソコンの時代で当然の現象かも知れないし、今更筆を持つなんて、と言う人も多いだろう。だが書道に携わる立場の者からすれば、日本古来の伝統文化の一つである書道は、末永く引き継がれて欲しいし、書の良さ、奥深さを再認識してもらいたいと思う。特に実用

書はパソコンや携帯電話の発達で、手書きの文章が影を潜めている。これは一面で仕方がないが、肉筆でなければ伝わらない人の心があることも事実である。年賀状もパソコンで製作したものが増えてきている。いろいろと工夫されて楽しいものもかなりある。それはそれでよいと思うが、中には差出人の直筆の字が一つもないものがある。宛名、自分の住所、裏も表も全てパソコンの印字。これでは有難みが半減してしまう。どこかにちよつと、へたでも本人の書いた字があれば救われるのだが……。このま、だと文字離れにまで及ぶのでは、と心配している。日本人ならば書に携わる機会がもっとあってよいだろう。「書の心」を理解してくれる人、特に若い層が一人でも多く増えてくれることを願っている。

プロフィール

なかはら・ほうしゅう（本名）宏。書家。秦高4回、横浜国大卒。大学在学中から活動を開始し、毎日書道展・奎星展に入選・受賞。高橋竹村、上田桑鳩、宇野雪村に師事。現在、毎日書道会評議員、毎日書道展審査会員、奎星会副理事長、照心書道会会長等。

表紙スケッチ

「故郷の山」

横溝英一（中20回）

秦野盆地から見る丹沢連山の形は、今も子どもの頃の記憶のまま。會て学校造林の作業に皆で何度も登ったあの山が、真止面に大きく見える。

あの時植えた松の苗木は、今はさぞ大きな樹になっていることだろう。

この風景は、故郷の眺めとしていかにもふさわしい、美しいものだと思う。

秦野高等学校創立80周年(草創120周年)記念

～醸金にご協力を!～

80周年記念事業醸金
目標額 10,000,000円

- 一口 2,000円 (一口以上で、お願いできれば幸いです。)
- 期限 平成17年12月31日まで
- 同封の払込取扱票をご使用ください。
- 来年が創立80周年です。

大正15年(一九二六)10月29日奈可中学校(26か町)村立学校組合)の開校式典日を開校記念日と定めています。平成18年(二〇〇六)が創立80周年にあたります。この記念すべき年を1年後に控え、学校、同窓会、PTAでは、実行委員会を組織し準備に着手しました。詳細につきましては、今後、組織された各種委員会で検討協議されることになっていきますが、過去の実施した周年記念事業を踏ま

え、「記念式典」「祝賀会」「記念誌発行」「記念品贈呈」「記念コンサート」「記念講演」「記念展示・発表・講演」「学校行事(マラソン大会・文化祭等)」「学校施設援助」等が考えられます。同窓会としましては、記念行事に必要な経費を同窓会員の醸金などで充当することにしていきます。同窓会員の皆様には、この趣旨をご理解のうえ、醸金へのご協力をお願いします。

叙 勲

叙勲の受章者が発表され、次の方々が受章されました。おめでとうございます。(敬称略・順不同)

- 旭日双光章
- 柳川 一郎(高1回)
- (県飲食業生活衛生同業組合 合理事長)
- 旭日双光章
- 熊沢 嘉孝(併1回)
- (元全日本スクリーン印刷 協同組合連合会会長)
- 瑞宝小綬章
- 高橋 和雄(中21回)
- (元関東地方更生保護委員会 会委員)
- 瑞宝小綬章
- 内田 均(高2回)
- (元県労働部長)
- 瑞宝小綬章
- 二見 修次(元校長)
- (元公立高校長)

春の異動

次の先生方が4月の異動で転退職されました。長い間、本校の教育にご尽力くださりありがとうございました。(敬称略)

- 早野 通哲(退職)
- 船川 志郎(退職)
- 岩瀬 充璋(退職)
- 小室 敦彦(鎌倉)
- 岸川 浩幸(光陵)
- 永井 明彦(神田)
- 上原 清則(神田)
- 高巢 信親(清南)
- 後藤 清和(清南)
- 田上 博子(清南)
- 城所 啓之(教育財務課)
- 西岡 昭(秦野曾屋)

◆物故者◆

慎んでお悔やみ申し上げます。

- 【客員】(敬称略)
- 杉山 一正
- 藤井 久男
- 佐野 隆蔵
- 西野 栄二
- 【会員】(敬称略)
- 中7 永山一郎
- 中8 稲垣顕之介
- 中15 石井親雄
- 中17 山本一雄
- 中19 佐野 多
- 中7 安藤清義
- 中12 柳田敏雄
- 中17 齊藤 茂
- 中19 佐野 多
- 高2 池谷好一
- 高4 今井 敏
- 高5 今福芳昭
- 高16 栗原一雄
- 高5 吉川秀一
- 高8 武 利孝
- 高42 小宮浩二

秦野高校同窓会会報委員会

〒257-0004 秦野市下大槻一三番地 県立秦野高等学校内
電話 〇四六三(77)一四三三三 振替口座 〇〇二二〇一八二二六八九
発行責任者 柳川 一郎(高1) 青木利之(高4)
須山 孝(中20) 古部三郎(高7)
榎本圭治(高2) 小泉広澄(高17)
永山孔昭(高6) 前田秀資(高28)